

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
音響芸術科											
サウンドシステム4											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	栃木哲也			実務 経験	有	職種	レコーディングエンジニア				
授業概要											
<p>今までの学習を基礎に、音響システム関連の知識を広げて行く事が目的。近年のレコーディングはコンピュータによるDAW化によって手軽なものとなり、簡単な操作をすれば何かしらの音の変化を起こすことが可能になった。しかし、闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しのつかない効果を招くこともある。目的とする音作りの到達は、音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。</p>											
到達目標											
<p>電気の基礎的理解を元に交流である音の理解を広げていく。またアナログ機器とデジタル機器を平行して学習していくことにより、音の処理を基本的な部分から理解し、音の変化の仕組みもイメージ出来るようにする。近年のデジタル化により音の記憶フォーマットも増えている上、これからの新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解していくことを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>講義形式にて行う。プリント資料を随時配付し、自分で完成させるワークタイプの物も配布するが、各自で音響関連の用語集を持参する事が望ましい。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。</p>											
成績評価方法											
<p>期末試験・課題・レポート・平常点を総合的に評価。</p>											
履修上の注意											
<p>音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
<p>授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。</p>											
回数	授業計画										
第1回	モニターについてモニター、モニターコントローラーの仕組み、ヘッドホンとスピーカー										
第2回	5. 1サラウンド										
第3回	映画館のサウンドDolby, DTS, THXの特徴その他フォーマット										

サウンドシステム4

第4回	劇伴収録映像とレコーディングスタジオの関係
第5回	音響補正ピッチ修正とタイミング修正、ノイズ処理
第6回	様々な楽器収録ポピュラーから珍しい楽器の収録
第7回	ライブレコーディングシステムライブレコーディングとスタジオレコーディングの違い
第8回	マルチトラックの技術アナログ時代のテクニック、ノイズ対策、ピンポン
第9回	DTM
第10回	マスタリングアナログ時代～現代のマスタリング
第11回	エフェクター応用1イコライザーとコンプレッサー、リバーブとディレイ
第12回	サラウンド・エフェクター基礎サラウンドで使用する主な機材
第13回	サラウンド・エフェクター応用
第14回	Voice人の声の録音と加工の応用、実践例
第15回	後期まとめ